

令和 6 年 2 月 21 日

世田谷区立山野小学校
校長 薄井 康裕 様

世田谷区立山野小学校
学校関係者評価委員会
委員長 長島 知数

令和 5 年度学校関係者評価委員会報告書

山野小学校学校関係者評価委員会では、令和 5 年 11 月に実施された「関係者アンケート調査集計結果」及び学校より提出いただいた「自己評価報告書」「重点目標の自己点検」をもとにその分析・評価を行いました。あわせて教員の先生方とのヒアリングを通じてみてきたことや感じたことを議論し、結果を以下のようにまとめましたのでご報告させていただきます。

<アンケートの回収について>

学校より通知いただいた今年度の保護者に関するアンケートの回収率は全校で 65%と前年に比較してほぼ同じでした。前年度よりアンケートの回答方法が Web をつかったものになったため、紙での回収に比較して強制力が弱くなったことが引き続き影響していると考えられます。山野小学校の場合世帯数が多いため評価の分析には十分であるといえますが、少しでも回収率を高める方法を探っていく必要があります。地域アンケートについては今年度回答率が 44.1%でした。昨年より回答率はあがったものの、回答者数としては増えていないため、次年度も継続して依頼をかけていきたいと考えます。

<重点目標に関する評価>

今年度学校経営方針の中で策定されている重点目標について、本アンケートの結果を踏まえて評価委員会にて議論し、評価いたしました。評価する項目については、山野小学校の内部評価(自己点検項目)に従って関係しそうなアンケート項目をピックアップしています。評価については、アンケートの肯定的評価が 80%以上になっていれば目標達成であるとして考察しました。以下記載いたします。

※報告書の中で肯定的評価と記載しているのはアンケートの「とても思う」「思う」の割合を合計したものです。

重点目標：すすんで課題に向き合い、判断して行動する児童の育成

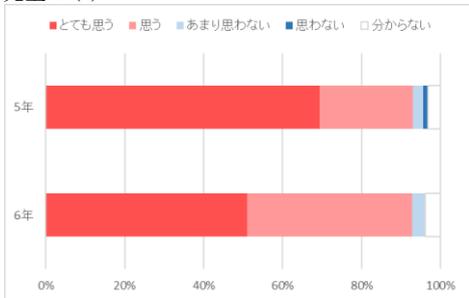
【内部評価①】：わかる授業づくりを工夫する／基礎基本の定着を図る／考え方や学んだことがわかるノート指導を工夫する

>>評価委員による評価・考察

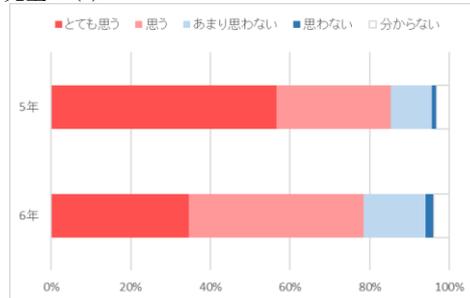
児童アンケートの 1-(1)先生は課題(めあて)について自分で考えたり友達と考えたりする時間を授業の中で取っている、1-(2)先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している、1-(4)先生は映像やタブレットを工夫し分かりやすい授業をしている、独-(5)私は授業中タブレットを活用できている、の4項目の結果をみると、1-(1)は 92.9%、1-(2)は 81.9%、1-(4)は 90.0%、独-(5)は 95.8%という肯定的評価であり、全ての項目で 80%を超える高い達成率でした。

一方、同様の質問に対する保護者アンケートの 1-(1)本校は子どもが考えることや課題を解決することを大切にしたい授業を行っている、1-(2)本校は黒板の書き方やプリントなどを工夫している、1-(4)本校は映像やタブレットを工夫し分かりやすい授業をしている、の結果をみると、全学年平均では 1-(1)は 85.3%、1-(2)は 76.4%、1-(4)は 80.5%となっており、1-(2)以外の項目は 80%を超える評価でした。

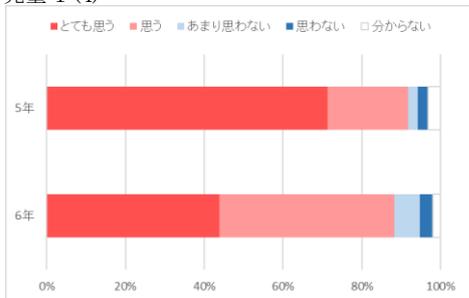
児童-1-(1)



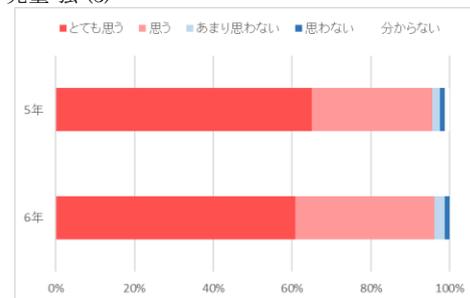
児童-1-(2)



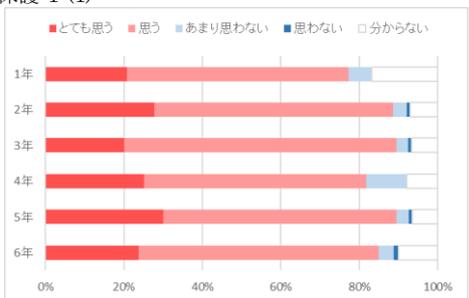
児童-1-(4)



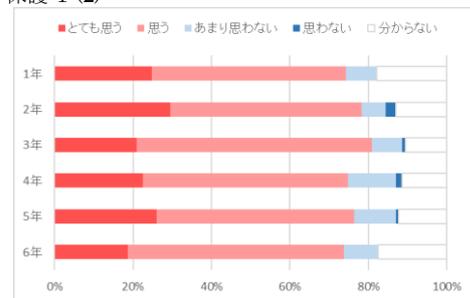
児童-独-(5)



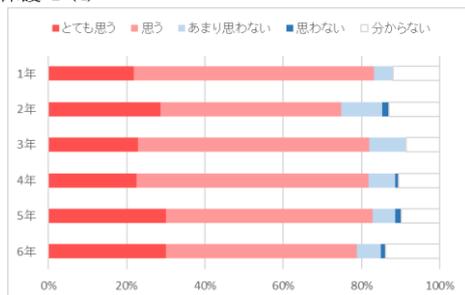
保護-1-(1)



保護-1-(2)



保護-1-(4)



授業そのものの評価については、児童-1-(1)、1-(2)、1-(4)の評価が80%を超えていることからかなり高いとみてとれます。毎年のことではありますが、これは大いに評価すべきであり先生方の日々の準備や授業に取り組む姿勢が評価されたものと考えます。また、独-(5)の評価については昨年を上回る95.8%という結果でした。授業の様子をみてもわかりますが、先生方の授業においてICTを多く取り入れており、それが自然な光景になりつつあるように感じました。他校の様子はわかりませんが、今後この状態が継続されていけば、行政としてこの項目を聞く必要がなくなってくるでしょう。

一方で保護者からみると、昨年に引き続き今年度も学校での子どもたちの様子をうかがうことが難しく、1割～2割程度「分からない」という回答がありました。しかしながら否定的評価(あまり思わない、思わないの合計)をみると、保護-1-(1)は5.6%、保護-1-(2)は9.9%、保護-1-(4)は8.2%と、全ての項目で1割を下回っています。このことから見えてくるのは、学校での様子をうかがい知ることが難しい保護者が一部いるものの、ほとんどの保護者が肯定的評価であり、先生方の授業に対する満足度が高いということです。授業というのは学校の根幹であり、それに対する評価が高いことは素晴らしいことだといえます。引き続き児童や保護者から評価されるような授業を継続して行ってほしいです。

<< 学校からのコメント >>

○小学校の時期は、生涯学習の土台づくりの時期であると捉えています。ことばの力を大切にしながら、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図っていこうと考えています。

○タブレットの入力が上手にできる児童が年々増えています。同時にノートに書く力も大切にしていきます。実際に鉛筆で書いて覚えることは、語彙を増やしたり、正しい書き順を覚えるのに有効であると考えています。筆圧と脳の発達の関係にも着目しながら、その児童にあった方法を見極めていきます。

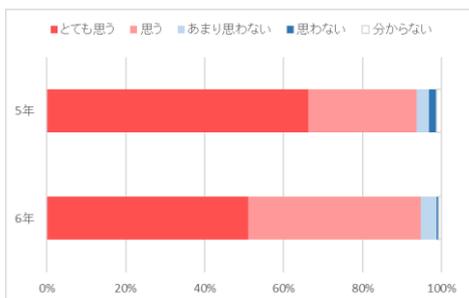
○教員の授業に対する満足度の高さは、維持していきたいと考えています。今まで以上に「質の高い授業」の具現化を目指し、授業力の向上のために校内研究や教材研究に努めていきます。

【内部評価②】：発言や意見交換の仕方が身につくよう指導する

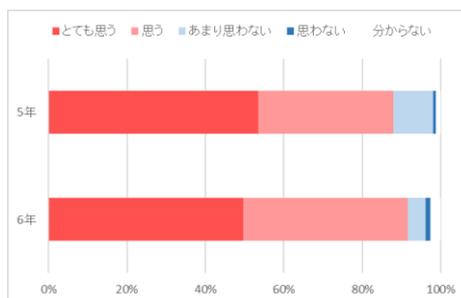
>>評価委員による評価・考察

児童アンケートの 1-(3)授業では話し合ったり発表し合ったりする機会がある、独-(1)私は授業中自分の考えをもつことができる、独-(2)私は授業中自分の意見を書いたり発言したりして伝えようとしている、独-(3)私は興味を持ったことにすすんで調べようとしている、の結果をみると、1-(3)は 94.2%、独-(1)は 89.7%、独-(2)は 66.5%、独-(3)は 82.9%という肯定的評価でした。保護者アンケートの 1-(3)本校は子どもが考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある、独-(2)本校は授業を通して学力向上を図っている、の結果をみると、1-(3)は 86.8%、独-(2)は 87.1%、と 80%を超える評価となっています。

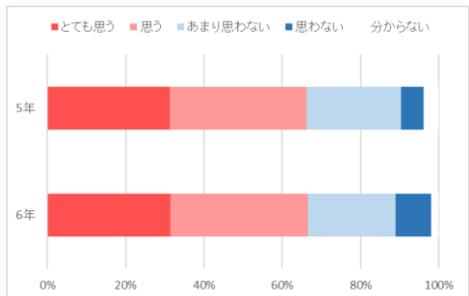
児童-1-(3)



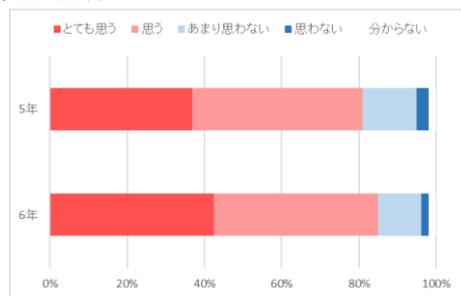
児童-独-(1)



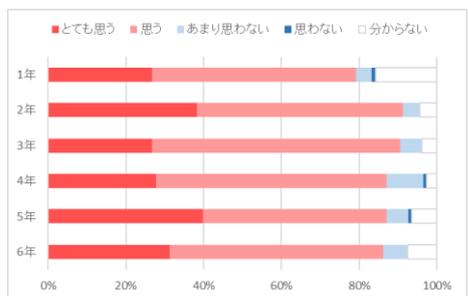
児童-独-(2)



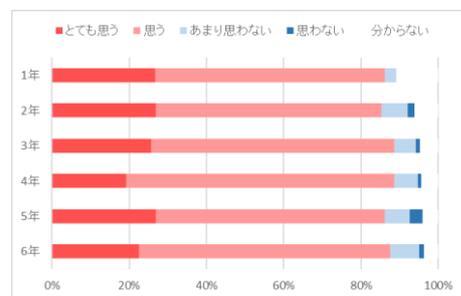
児童-独-(3)



保護-1-(3)



保護-独-(2)



全体的な評価としては、児童も保護者も肯定的評価は高い数字となっており、先生方が発言の場や児童同士が意見交換できるような授業をしていることがあらわれているといえます。今回独自項目を変更し、興味を持ったことにすすんで調べようとしているかどうかという項目を足しました。これにより、次のような流れが見えてきました。

自分が考えたことを話し合ったり発表する機会はある→授業中に自分の考えをもつことはできている→興味をもったことにすすんで調べようとしている→しかしながら授業中に自分の意見を伝えることができずにいる。

せっかく考えをもっておりすすんで調べているにもかかわらずまわりにそれを伝えることができている、ということです。現在の学習指導要領においては、この部分がとても大事なことであり我々も認識しています。伝えることというのは社会人になっても様々な場面で重要なスキルです。ここはぜひのびて行ってほしい項目であります。クラス全体をみている先生方からすれば難しいところもあるかと存じます。例えば発言のための準備としてよりよいインプットをはかっていくなど、子どもたちが積極的に伝えられる環境を整えて行ってほしいと考えます。

<< 学校からのコメント >>

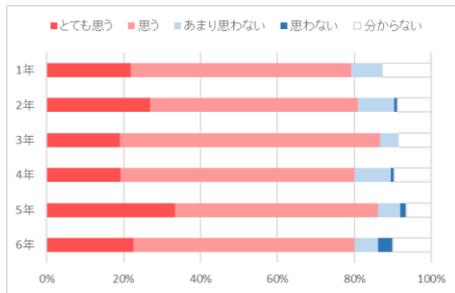
○上記の分析については、課題として受け止めていきます。
○校内研究では、考えを「持つ」「広げる」「深める」に焦点をあて3年間研究に取り組んできました。ロイロノートを使うことで、クラス全員の考えを声に出さなくても共有することができる環境が日常になってきています。今までとは違って発表する経験が不足しているのかもしれませんが、伝え合っている実感が湧かないのかもしれませんが。低学年では、隣の人と意見交換する機会をたくさん作っています。中学年では、グループや班の中で話し合うことを繰り返しています。大勢の前でも自信を持って発表できる児童の育成を目指して、段階的に指導を積み重ねていきます。安心して意見表明できるクラスの雰囲気も大切だと考えています。

【内部評価③】：児童なりに判断し行動する力を育てる

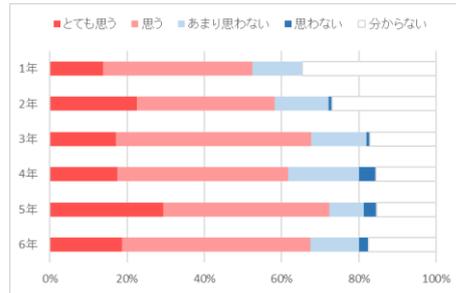
>>評価委員による評価・考察

保護者アンケートの2-(1)本校は学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている、4-(1)本校の教員は子どもに目標をもたせその実現のために支援している、4-(2)本校は子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている、の3項目の結果をみると、2-(1)は82.1%、4-(1)は63.3%、4-(2)は54.2%の肯定的評価であり、特に項目の4については目標を大きく下回る結果となりました。

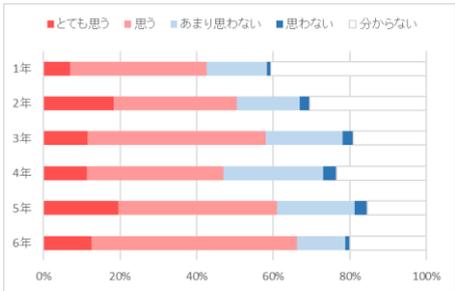
保護-2-(1)



保護-4-(1)



保護-4-(2)



保護者アンケートの2-(1)についてのポイントは、学校での過ごし方やルールについて子どもに「指導している」ではなく「考えさせる指導をしている」という文言になっていることです。昨年同様に、1割程度「わからない」という回答がでてしまっています。これはアンケートの質問の仕方が影響しているとは思いますが、どうしても「考えさせる」という文言があると、質問に回答する瞬間とまってしまう保護者がいるだろうことは想像できます。行政としては学校にそういった指導を求めており、先生方も指導なさっているのかもしれませんが、保護者にはやや伝わりにくいのかもかもしれません。

項目の4については、世田谷区ですすめている「キャリア・未来デザイン教育」にもつながる部分です。しかしながら、昨年同様に保護者には伝わりきっていないことが結果からみてとれます。キャリア教育というテーマはとても重要であり、重点目標の1番目にも設定されています。この項目に保護者から理解をいただけていないことは非常に残念です。学校側ではおそらくキャリア教育に力をいれているのだろうと想像しますが、保護者には何をもってキャリア教育なのか、という基本的な部分が伝わっていないのではないのでしょうか。誤解を恐れずに申し上げれば、もしかしたら行政の方針を含め迷走してしまっているのかもかもしれません。

我々に言われるまでもないと存じますが、小学生課程におけるキャリア教育とは、将来の可能性を広げるための柔軟性や多様性を促進し、コミュニケーションや問題解決などの基本的なスキルに焦点をあてるべきであると考えます。子どもたちが楽しみながら学ぶこ

とができるプログラムを提供し、子どもたちが自信をもって将来に向かってすすむための基盤を築くことが重要です。

保護者に対してより丁寧に山野小学校での取り組みについて説明し、理解をうながしていくことができれば、これらのアンケート項目の肯定的評価はあがっていくものと推察します。時間はかかるかもしれませんが、ぜひ頑張ってください。

<< 学校からのコメント >>

○本校のキャリア教育の内容や進め方について、保護者や児童への周知を図っていく必要性は痛感しているところです。

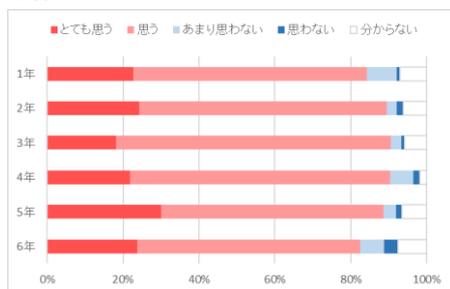
○キャリア・未来デザイン教育については、小・中の到達レベルや発達段階に応じた指導の系統性などについては、各校がそれぞれに取り組んでいる状況です。本校でも、ゲストティーチャーをよんだり、出前授業をしてもらったりということは、年間を通して行なっています。行事ごとのねらいに合わせて、自分の取り組み方を考えさせたり、振り返ったりすることは、どの学年でも行なっています。そういった活動が、キャリア教育と関連しているということを、児童は意識していないのかもしれませんが。

【内部評価④】：社会的マナーを育成する

>>評価委員による評価・考察

保護者アンケートの2-(2)本校は教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している、の結果をみると、87.6%の肯定的評価であり、目標を達成できています。

保護-2-(2)



社会的マナーに直接つながるかはわかりませんが、アンケート項目の中では近いと判断し関連付けて評価しました。昨年に引き続き9割近くの肯定的評価を得られており、子どもたちにとって中心となる学校での過ごし方やルールを理解できていると保護者が感じられる状況というのは、とても素晴らしいことであると考えます。現在の山野小学校は非常

に落ち着いている、と言われていることの裏付けがこういったアンケートの項目にもあらわれているのではないかと推察します。

<< 学校からのコメント >>

○以前と比べて、学校全体の雰囲気が年々落ち着いてきていることは、事実だと思っています。この状態を、今後も維持していきたいと考えています。引き続き、家庭・地域と連携して、社会的マナーや社会性の育成を目指していきます。

○教員は、その日に起こったことをその日のうちに保護者に伝えることを、意識的に行なっています。そのため、夕方以降の電話による連絡が非常に多くなっている現状があります。働き方改革との両立が課題となっています。

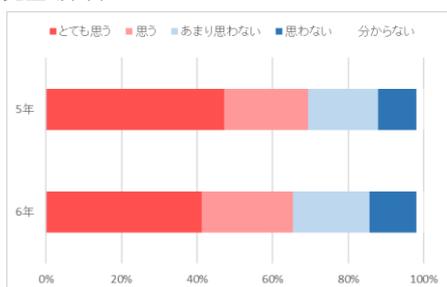
【内部評価⑤】：体力向上に向けて取り組ませている

>>評価委員による評価・考察

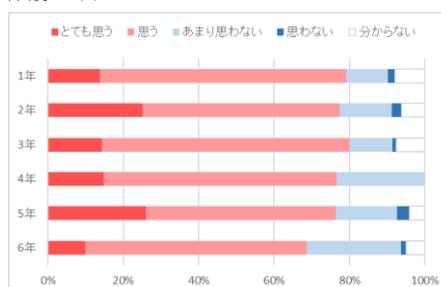
児童アンケートの独-(7)私はすすんで運動したり体を動かす遊びをしたりしている、の結果をみると、独-(7)は67.4%の肯定的評価であり、目標を達成することはできませんでした。

また、同様の質問に対する保護者アンケートの6-(5)子どもは体力の向上や健康な生活に取り組んでいる、独-(7)子どもたちはすすんで運動したり体を動かす遊びをしたりしている、の結果をみると、全学年平均では6-(5)は76.3%、独-(7)は74.8%の肯定的評価であり、同じく目標を達成することはできませんでした。

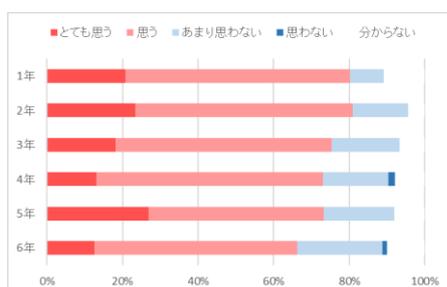
児童-独-(7)



保護-6-(5)



保護-独-(7)



質問の中で、学校内という条件をつけておりませんので、生活の中で体を動かすことができているかどうか、という視点でのアンケートになっています。高学年ならではのかもしれませんが、児童アンケートの結果としては肯定的評価があまり高くありませんでした。もちろん子どもたちが外で遊べるよう先生方が色々と考えておられることは聞いています。しかしながら、やはり短い休み時間に第2校庭まで行って遊んで帰ってくるのはなかなか時間的にも難しい状況なのでしょう。山野小学校の運動能力は、測定の結果からみれば全国の小学校平均から下回っているそうです。大規模校のネックもあるとは思いますが、心身ともに健康な子どもという教育目標にもあるように、なんとか体を動かせるようになってほしいです。

<< 学校からのコメント >>

○昨年も同様の結果でした。設問にある「すすんで～」という部分について、子供なりに自分の取り組み姿勢を正直に答えて、結果が低くなっているのかもしれませんが。

○本校では、年間でマラソントイムや短なわ、大なわなどを全校で取り組んでいます。ただ、季節的に一時的な取り組みになってしまっているのが、残念な部分です。

○本校の現状としては、児童数の多さに比べて、校庭は狭いと言わざるを得ません。全速力で走れる距離が短いことは、蹴り出す力や踏み込む力の弱さに現れているような気がします。また、体幹が弱い児童が多いのも事実です。すぐ転ぶ、転ぶと頭や顔を打つ、手をついても骨折するといった事例が後を断ちません。体育の授業で補える部分もありそうなので、校内で検討をしていきます。

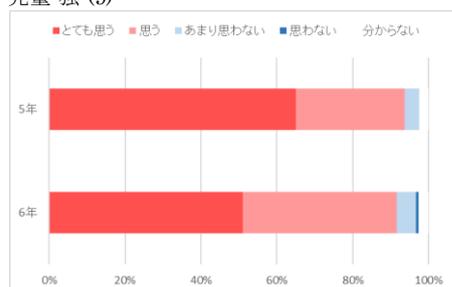
【内部評価⑦】：マナーを守って食べるよう指導する

>>評価委員による評価・考察

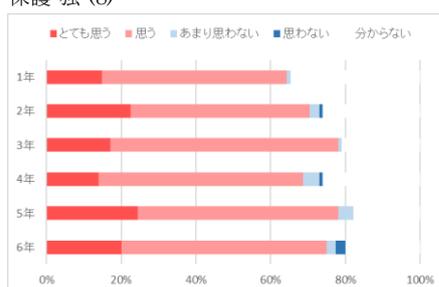
児童アンケートの独-(9)私はマナーを守ってみんなと楽しく給食を食べている、の結果をみると、独-(9)は 92.6%の肯定的評価であり、90%を超える高い肯定的評価となっています。

また、同様の質問に対する保護者アンケートの独-(8)子どもたちはマナーを守ってみんなと楽しく給食を食べている、の結果をみると、独-(8)は 72.4%の肯定的評価であり、目標を達成することはできませんでした。

児童-独-(9)



保護-独-(8)



今年度の独自項目については、好き嫌いなく食べる項目についてははずしました。昨年度の報告書にも書きましたが、この項目については取扱が難しくなっていました。好き嫌いについて何とかして食べさせていくという指導方針ではなくなっていることから、評価する必要がなくなったと判断したためです。その代わりマナーを守って楽しく給食を食べるという給食に限定した項目を残しました。この変更に対して、子どもたちの肯定的評価が高かった、ということは我々としては喜ばしい結果でした。コロナ禍を経て給食の食べ方や楽しみ方が変わってしまった現在では、給食を楽しめているのだろうかという不安があったからです。また、保護者のアンケートをみても2割前後が「わからない」と回答していますが、それ以外の方についてはほとんど否定的評価がありませんでした。どうしても給食の場面がみえない保護者からすれば、子どもたちの様子がわからないのかもしれませんが、できれば日々子どもたちとの会話の中で給食楽しい？などの話題を出すことで様子を知るきっかけにしてもらえたらなと考えます。

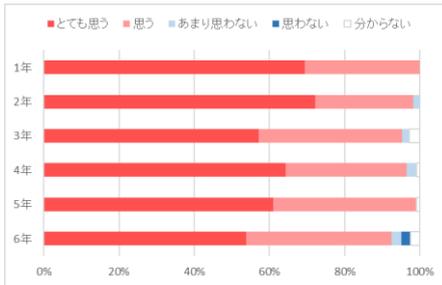
<< 学校からのコメント >>

- 給食が美味しいと感じている児童が多いことは喜ばしいことです。コロナ禍以降、パーテーションは外しましたが、班で向き合って給食を食べるのではなく、全員黒板の方を向いて黙食を継続している状況です。感染症等が落ち着いて、以前のように会話をしながら楽しく給食を食べられる状況かどうか様子を見ています。
- アレルギー対応が必要な児童数は、大規模校の割には少ないと感じています。とわいえ、引き続き注意深く誤食・誤配等に気を付けて、給食指導をしていきます。

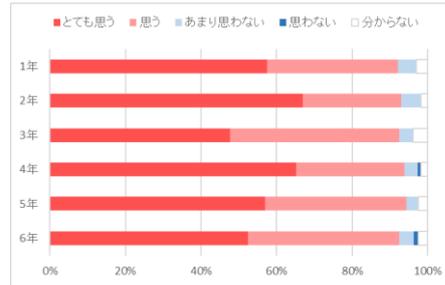
<子どもたちと学校の関係性について>

3-(1)学校行事は子どもにとって楽しい、3-(2)学校行事は子どもにとって達成感がある、3-(3)本校は子どもの意欲を大切にしている、6-(1)本校の学校生活は子どもにとって楽しい、の4つの項目の結果をみると、すべての項目において学年平均が90%を超えており肯定的評価がとて高いことがわかります。

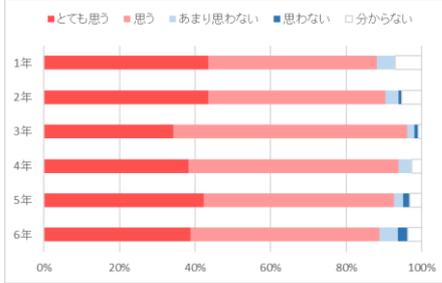
保護-3-(1)



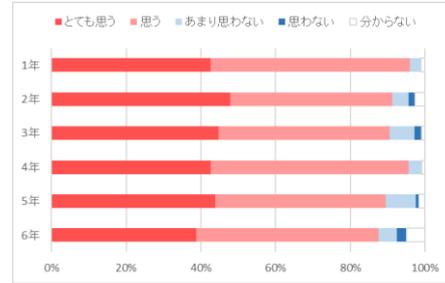
保護-3-(2)



保護-3-(3)



保護-6-(1)



毎年の評価にはなりますが、これらの項目に関する保護者の肯定的評価が高いというのは素晴らしいことであると考えます。コロナ禍の閉塞感漂う環境であっても変わらず高い評価を継続しているのが、山野小学校の強みであり先生方の指導、校長先生の経営の賜物であるといえます。特に新一年生の3-(1)の質問においては、「とても思う」と「思う」の肯定的評価のみで100%を構成しています。これは直近10年のアンケート結果を見る限り初めてのことです。授業と同じくらい学校行事というのは子どもたちにとって大切ですから、保護者から学校行事が楽しいと思われているというのは、学校に対する大きな信頼の証であり、先生方の努力の結果であると考えます。

山野小学校の特徴ともいえるフェスタについては、今年度も評価委員会からのヒアリングや、内部評価において先生方から多くのご意見が寄せられました。今年度から、フェスタの形式が変わりましたが、それでもフェスタの準備に時間がかかり通常授業が進められないといった声もあります。新しく山野小学校に赴任された先生が不安に感じるような状況はあまりよろしくありませんが、一方でフェスタが山野小学校の行事に対する魅力度を高めているともいえます。昨年も書きましたが、やはりフェスタの在り方というものをしっかりと学校全体で考えていくことが重要だと感じています。先生方が通常授業をしっかりと行えるように行事負担そのものが減っていく、ということと、児童や保護者の満足度や達成感がしっかりと保障される、これらをいかに両立していくかだと考えます。短期的にすぐ

解決できる問題ではないのは重々承知しています。形を変えることは決して悪いことではありませんし、学校関係者に協力を仰ぐことがあってもよいと思います。今後も学校経営の中で試行錯誤して行ってほしいです。

<< 学校からのコメント >>

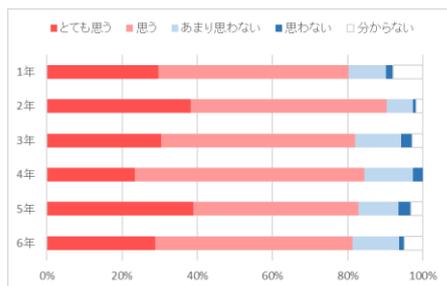
○学校行事を通して子供が育つ部分は大きいと考えています。よって、教員の負担感を軽くするために、単純に行事を簡素化すれば良いと考えているわけではありません。国や都が残業時間を調査しており、働き方改革の流れの圧が強くなっているのは事実です。できることから改善していきます。

○教職員の中にも、「タイパ」や「合理性」に重きを置く考えの人が増えてきています。行事への負担感より子供の成長や達成感・満足感を優先していける教職員集団にしていきたいと考えていますが、ご指摘のように、両立を目指して少しずつ意識改革していきたいと考えています。

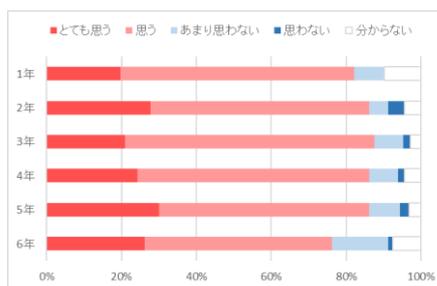
<保護者と学校の関係性について>

5-(2)本校は子どものことを相談しやすい、6-(4)本校の教育活動に満足している、7-(1)本校は様々な便りなどで保護者に情報を提供している、7-(3)本校は学校公開や保護者会などで児童の様子が分かる、7-(4)本校はホームページやメールなどで保護者に情報を提供している、独-(9)保護者同士のかかわりが十分に取れている、の6つの項目の結果をみると、5-(2)は83.5%、6-(4)は84.0%、7-(1)は90.9%、7-(3)は92.5%、7-(4)は85.2%、独-(9)は33.0%の肯定的評価でした。

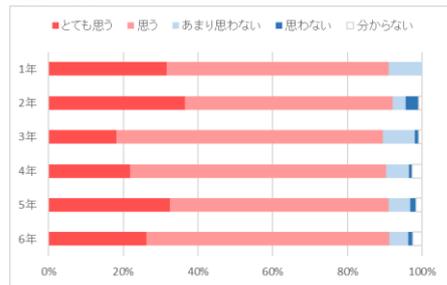
保護-5-(2)



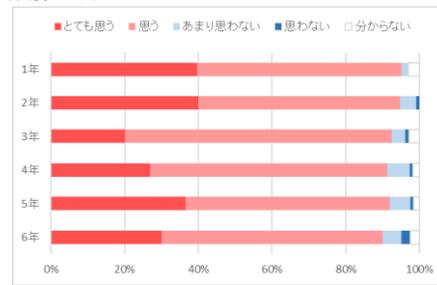
保護-6-(4)



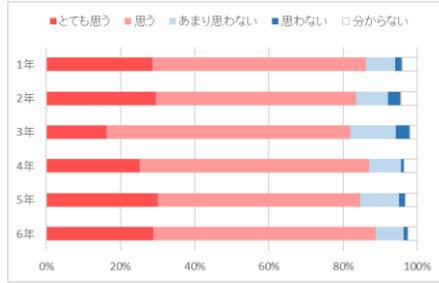
保護-7-(1)



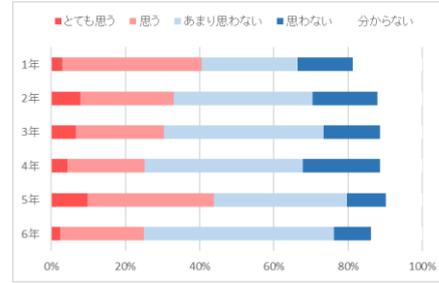
保護-7-(3)



保護-7-(4)



保護-独-(9)



5-(2)、6-(4)、7-(1)、7-(3)、7-(4)、の結果をみると、全ての項目において8割を超える肯定的評価であり、特に7-(1)、7-(3)、の項目においては9割を超えました。この結果をみると、先生方や学校に対する保護者からの信頼を感じることができます。学校公開や保護者会が少しずつコロナ前に戻ってきていることも好影響を与えていると想像できます。7-(1)、7-(3)、7-(4)はすべて学校側からの情報提供に関する項目ですので、積極的に保護者へ情報提供をおこなっている様子がみられ大いに評価できるといえます。評価委員からみても山野小学校の先生方は子どもたちのことをよく考え授業を実践してくれています。そういった様子を保護者がしっかりとつかうことができれば、保護者と学校の関係というのは大きく崩れることはないと思っています。ホームページに関しては1割程度十分な情報提供ではないと感じている保護者がいます。小学校のホームページは一般のページに比較してあれこれと工夫を凝らすことができない仕様になっていますので仕方がないのですが、様々なインターネットサイトに見慣れた現代においては少し古臭いテイストを感じてしまうため、否定的評価につながってしまうのでしょうか。ここは行政側が見直してもよい部分ではないかなと考えます。

今年度も、独-(9)はひどい結果となりました。保護者同士のかかわりがほぼとれていないという現状です。今年度は保護者会をリアル開催し、オンラインをなしにしました。コロナ前はそれに加えて懇談会がありましたが、現在はなくなっています。こういった状況下では、クラス替えすると誰が誰だかわからないということが起きがちです。しかしながら、在校生の保護者からそれほど不安に感じている保護者はいないのではという意見を聞きました。確かにいつの時代も学校に積極的にかかわる保護者とそうでない保護者がいましたから、保護者同士のかかわりがあまりないことが必ずしも悪であるとはいえないのかもしれませんが、また、すぐーるなどで学校からの連絡方法が変わったことで横つながりがなくても不安がなくなったこともあるかもしれません。保護者と学校の関係性を考察していくためには、この独自項目では不足しているのかもしれませんが、次年度は質問の仕方を変えることも検討していきたいと考えています。

<< 学校からのコメント >>

- ホームページの更新については、引き続きの課題としたいと考えています。
- 学校の様子については、親子の対話で情報を知るというプロセスを大事にしてほしいと考えています。仕事の関係や習い事等で、家族の時間の共有が難しくなっていることと思われまます。子供たちの「まんまる」な心の成長のためにも、親子の会話を楽しんでいきたいと思いますと考えています。
- コロナ禍以降、対面での保護者会などが減った関係で、保護者同士のつながりの希薄さも課題となっているところです。少しずつ、対面の機会を増やし、改善を図っていききたいと思いますと考えています。

<WiFi 環境/ICT 教育について>

今年度も先生方のヒアリングにおいて、WiFi 環境の問題が指摘されました。この問題については行政側でも一定対策をすすめてくれた結果、導入当初に比べれば少しずつよくなっている印象をうけます。しかしながら、まだまだ完璧であるとはいえないというのが現場の先生方の意見です。大規模校ならではかもしれませんが、同時接続による速度低下やWiFi の接続可能エリアについては継続して向上をはかっていく必要があります。これだけICT 教育環境が整ってきたのであれば必ず担保しなければならない点だと考えます。

また、子どもたちに与えられているタブレットの不具合やトラブルの解決を先生方がしなければならないのは大変だろうと想像できます。先生方はもちろんデジタル機器の専門家ではありませんし、多くのトラブルを個人の力量で対応なさっています。ICT サポートの方がきてくれるのはいいと思いますが、授業中の全てのトラブルに対応できるわけではないのが残念です。

先生方のヒアリングで聞こえてきた声として、様々な作業をするシステム(PC?)が統一されていないという点です。過去から少しずつ足されてきたため全ての作業をひとまとめにできないというのは一般企業でもよくある話ですが、そのしわ寄せは全て現場の先生方に集中します。使い勝手によって作業効率が落ち、時間がかかることで結果的に授業の準備や他の先生方との話し合いに時間が割けないようではまったくよい循環であるとはいえません。学校内だけでは解決できる問題ではないかもしれませんが、ぜひ行政に声を上げ続けてほしいと考えます。

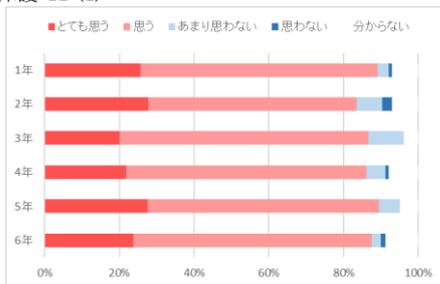
<< 学校からのコメント >>

- システム上の課題は、ご指摘のとおりです。今後、機器のリプレイスが予定されており、その時により統一感のある仕様になっていくと期待しているところです。現状のものを上手に使っていくしかないと考えています。

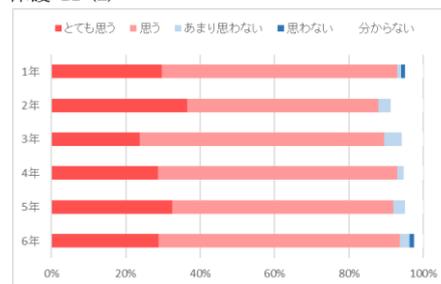
<学校と安全について>

11-(1)本校は安全な学校づくりを進めている、11-(2)本校は避難訓練やセーフティ教室などで子どもに安全に関する指導をしている、11-(3)本校は自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している、独-(5)子どもたちは安全に気を付けて登下校をしている、の4つの項目の結果をみると、11-(1)は87.0%、11-(2)は91.5%、11-(3)は84.3%、独-(5)は78.2%の肯定的評価でした。また児童アンケートでは、独-(8)私はいつも安全に気を付けながら登下校をしている、の結果をみると86.1%の肯定的評価でした。

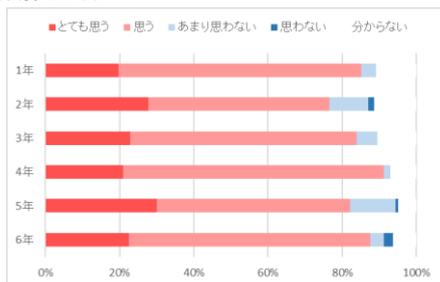
保護-11-(1)



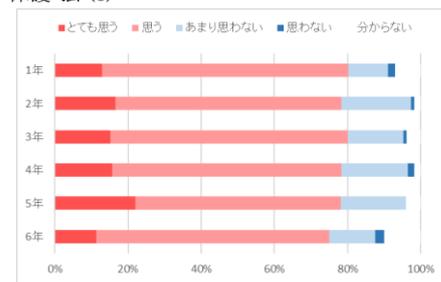
保護-11-(2)



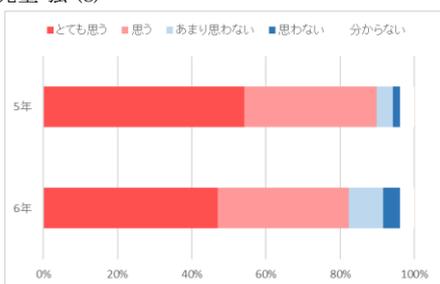
保護-11-(3)



保護-独-(5)



児童-独-(8)



2024年1月1日に発生した能登半島地震は、マグニチュード7.6、最大震度7であり、死者200人を超える大きな被害をもたらしました。当然ながら日本は地震大国であり、我々の住む東京エリアでもいつ大きな災害が発生するかわかりません。もしも災害が発生した際には、砧地域の要である山野小学校は避難場所としての役割を担うこととなります。平日の日中に発生した場合には、一時的に児童を預かる場所としての機能を担うことになっています。保護者アンケートの11-(1)、11-(2)、11-(3)をみればわかるように、保護者からは学校の安全対策についてほとんど不安はないという結果です。校舎が建て直され

たばかりであるということもありますが、設備としては充実しているためよほどのことがない限り倒壊するリスクは低いと想定され、安心であるといえます。保護者が働きに出ていてすぐに対応できない場合には学校の先生方が中心となり、地域と協力して避難所運営をしますから、拠点となるための準備が大事であると考えます。

独自項目では、保護者と児童に対して登下校のことについて聞いてみました。結果をみると、安全に気を付けながら登下校できていると認識している児童は8割を超えていますが、保護者は8割を下回っています。地域のアンケートをみても登下校の様子があまりいいとは言いきれないことがわかります。登下校中の事故やトラブルはできるだけないようにしたいですから、今後も子どもたちに対してしっかりと指導していただきたいです。

<< 学校からのコメント >>

○本校の新校舎の耐震性は信頼できるものと、信じています。万が一の時は、保護者の方がお迎えに来るまで、安全に子供たちをお預かりしておくことができると考えています。

○同時に、児童や教職員が、もしもの時に的確に判断できるか、行動できるかといったソフト面の育成も大切であると考えています。

○登下校の安全については、課題が山積しています。効果的な改善策が見つからないというのが現状です。今後も、交通事故には十分注意して登下校するよう、繰り返し指導していきます。

＜総合所見＞

山野小学校開校 60 周年、おめでとうございます。今年度は 60 周年を祝うべく周年委員会がたちあがり、各種イベントを開催してきました。地域でもお祭りがコロナ前の活気を取り戻し、ようやく砦地域の本気をお住まいの皆さんに届けることができました。特に小学校に入学してから地域イベントを何も経験できていなかった子どもたちにとっては、初めてのことが多く各イベントが子どもたちの笑顔で溢れていました。我々評価委員としても、山野小学校が周年イベントを通してより元気になっていく姿をみてとても嬉しい気持ちになりました。校長先生をはじめイベントに協力してくれた教職員の皆様や、学校関係者の皆様に心から感謝したいです。我々の小学校はこうでなくては、という想いに火がついた 1 年でした。

今年度もアンケートの Web 方式化による回答率の低下が起こってしまい、残念ながら多くの保護者の皆様の意見を反映した結果ではございません。そこは非常に残念です。できるだけ多くの方のご意見をもとに、どうしたら山野小学校がよい学校になるか、どうしたら学校経営がよくなっていくのか、真剣に考察し行政へその声が届くことを願って報告書にまとめています。もしこの報告書を読んでいただけた方でアンケートに回答できなかった方がいればぜひ、次年度は回答していただきたいです。

今回は考察いたしませんでしたが、相変わらず「学び舎」については保護者にうまく伝わっていません。校舎が同じ敷地だったり隣接しているエリアにあればまだ、お互いの交流がうまくいっている小中学校があると思いますが、砦地域についてはうまくいっているようには感じられません。小学校の先生が中学校の授業を見学に行った際もそのレベル感に疑問を抱くことがあったようです。わざわざアンケート項目に入れ続けるのであれば行政の意向を明確にし、現場が納得できるようにすべきです。また、教職員の皆様の授業以外の業務が多すぎる状況も改善されていません。組織体制、業務用システムの構成などの話になりますから、簡単ではないと思いますがぜひ取り組んでほしいです。

未曾有のバイオハザードによって落ち込んだ経済が回復してきている状況において、様々なことが新しい形に変化してきています。未来ある子どもたちの大切な 6 年間を支える教育の場ですから、その変化に柔軟に対応しながら素晴らしい学校経営ができることを期待しています。

世田谷区立山野小学校

令和 5 年度学校関係者評価委員会

時田	学	宮崎	浩
和賀	万貴	神部	恭久
津田	美欧	阪西	由理
菊地	洋充	長島	知数